

柿 特報 No.7

H29.9.1
JA中野市営農センター
JA中野市柿研究会



園地の病害虫の発生状況をよく確認し、適切な防除を行ないましょう。また、薬剤は丁寧にたっぷりと散布しましょう。

病害虫防除

隣接園(特に収穫期の作物)に飛散しないように注意してください

●9月上中旬の散布(着色開始期前:9/5~10)

散布日	9月	日
散布量		ℓ

散布薬剤	水 100ℓ 展着剤 10ml キノドーフロアブル 100ml (収穫14日前、5回以内) 劇オリオン水和剤40 100g (収穫21日前、3回以内)
対象病害虫	炭疽病、うどんこ病、アザミウマ類、イラガ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ
散布量	10a当り500ℓ *若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する
備考	●(アメリカシロヒトリ)の発生園は、アディオオン水和剤3,000倍(7日前、5回)を加用する。 ●収穫間近の品種に散布する場合は、オリオン水和剤40に代えて、モスピラン顆粒水溶剤の4,000倍(前日、3回)を使用する。

●今後の管理について

*雑草管理・・・主幹害虫対策として、根元は常にきれいにしておく。
 pasta液剤(収穫前日まで、3回以内)
 10a当り 水100~150ℓに対し、pasta液剤500ml

*見直し摘果・・・着果量が多い場合は、変形果などを中心に摘果しましょう。

農薬(毒物・劇物)をお買い求めの際には、印鑑をご持参ください。